

## 平成21年度 財団法人横浜市青少年育成協会 事業計画

横浜開港150周年にあたる平成21年度は、協会にとって大変重要な意味をもつ年になります。

発足から4年余、協会の運営する青少年4施設を拠点とした、青少年の健全育成事業や青少年活動支援の他、自立支援をはじめとする青少年の社会的な課題への対応、放課後児童育成推進（放課後キッズクラブ）等に、地域や企業、関係機関・団体と協働・連携し取り組んできました。

特に平成20年度は、事業評価委員会からの“人材育成”“アウトリーチ”“青少年の現状把握”の3つの提案(H19)を要点に事業を実施するとともに、団体の自主・自立的経営促進のため、『組織・人事給与検討委員会の提言(H18)』に基づく組織改革、自主財源の確保、PDCAサイクルの充実等、公益的使命を達成していくための財務・組織基盤の強化に努めました。

一方、平成20年12月、民法に定める公益法人制度が改められました。それに伴い協会は、団体の目的、事業の性質・内容、財務、組織、財産等を公益認定の基準に沿って再構築し、今後5年以内に新公益法人に移行していく必要があります。

さらに、青少年4施設の指定管理者4年目となる平成21年度は、次期指定管理者獲得を目標に、これまでの成果を検証し青少年育成の実績を示していく年となります。

そこで、平成21年度は、新たに『新公益法人への移行』を協会の中期的な事業の柱に加え、こども青少年局と共に青少年施策を推進する特定協約団体として期待される、青少年の健全育成・自立支援、放課後児童育成推進の取り組みを充実するとともに、財務・組織基盤の強化を更に推進し、青少年育成の専門的な公益法人としての基盤を確立していきます。

### 【中期的な事業の柱】

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| A：放課後児童育成       | E：指定管理者としての実績づくり |
| B：青少年の自立支援      | F：新公益法人への移行      |
| C：青少年のための居場所づくり | G：財務・組織基盤の充実・強化  |
| D：青少年の健全育成      |                  |

また、平成21年度は、本部機能の強化を目的として組織改革を更に進めた新組織体制で、B・C・Dの事業の柱を一体的に捉え、次の5項目の事業を協会本部・青少年4施設が連携し協会全体で展開します。

### 【協会全体で展開する事業】

- 1 地域における青少年活動の推進
- 2 青少年の自立支援や健全育成に関わる人材の育成
- 3 自然環境や地域資源を活用した青少年育成プログラムの開発・展開
- 4 科学体験・社会体験・就業体験等の体験機会の提供
- 5 学校等と連携した科学教育の推進

【平成21年度事業計画書】 総務企画部 総務課

総務課の運営（運営方針）			
<p><b>重点目標</b></p> <p>横浜市との特定協約団体として、自主・自立的経営のため、協会の組織・人事給与改革を推進します。そのため、協会本部として、新組織体制での円滑な運営、適正な経営及び、危機管理体制の強化を図ります。</p> <p>また、所管局との連絡調整を密にするとともに、新公益法人への移行・次期指定管理者獲得のための調査・研究等の準備を行います。</p>			
事業の基本方針			
<p><b>事業全般の方針</b></p> <p>協会の財務・組織基盤の充実を図るため、会員関連事業及び、職員の資質向上のための研修を実施します。</p> <p><b>重点的な取り組み</b></p> <p>協会の取り組みへの理解を深めるため、会員関連事業の充実を図ります。また、新公益法人への移行に関連し、会員制度(賛助会員)のあり方についても検討します。</p>			
事業の数値目標			
会員数：1,000件		職員全体研修実施：8回以上	
各事業の方向性			
事業の柱	説明		
会員関連事業 (G- -1)	<p>会員に、協会の動きや、参加可能な事業等を周知し、協会事業への参加および協会への理解を深めるための情報紙を発行します。また、協会への理解を深めるとともに会員相互の交流及び協会職員との交流の場を提供します。</p> <p>なお、新規会員獲得のための協会事業を通じたPRを随時行うとともに、協会ホームページで入会を呼びかけます。</p> <p>協会だより、会員交流会（新春のつどい）他</p>		
職員研修 (G- -2)	<p>職員の資質向上や、業務水準の向上を図るための研修を実施する他、外部研修への職員の参加機会を増やします。また、事業成果や課題を職員相互で発表・検討する研究交流集会を開催します。</p> <p>人権研修、研究交流集会 他</p>		
運営の基本方針			
協約の数値目標	自主財源比率	30%以上	
協約目標への取り組み	自主財源率を高めるために、事業を通じての財源確保に努めます。		
新公益法人への移行・次期指定管理者獲得のための準備	<p>新公益法人への移行のため、協会の目的、事業の性質・内容、財務、組織、財産等を公益認定の基準に沿って再構築するための調査・研究及び、諸規程・要綱等の大幅な改正作業を行います。また、次期指定管理者獲得のために、これまでの成果を検証し青少年育成の実績を示せるよう準備を進めます。</p>		
コスト削減	<p>消耗品等の削減はもとより、事務事業の効率化を協会全体で更に進めることによりコスト削減を図ります。</p>		

企画営業課の運営（運営方針）	
<p><b>重点目標</b></p> <p>こども青少年局と共に青少年施策を推進するパートナーとして、青少年の健全育成・若者自立支援等の推進に取り組みます。今年度は、強化された体制のもと青少年育成に関するニードの掘りおこし・把握のための地域へのアウトリーチ(営業活動)の強化を図ります。</p> <p>また、協会本部ならびに青少年4施設の事業成果を検証し、青少年育成の実績を示していくことができる事業展開と更なる改善を行うための機能を充実します。</p>	
事業の基本方針	
<p><b>事業全般の方針</b></p> <p>青少年の健全育成・若者自立支援推進のための事業を企画し、青少年4施設及び放課後児童育成推進部及び、関係機関・団体と連携実施します。事業を通じ、参加者だけではなく運営者も育っていけるよう、活動の支援並びに評価・検証を充実します。</p> <p><b>重点的な取り組み</b></p> <p>地域における青少年活動の推進、青少年育成プログラムの開発・展開、体験活動機会の提供及び、青少年の自立支援や健全育成に関わる人材育成に取り組みます。</p>	
事業の数値目標	
青少年の体験活動コーディネート件数：400件以上	人材育成事業参加者：400人以上
各事業の方向性	
事業の柱	説 明
地域における青少年活動の推進 (BCD- -1)	こども青少年局や区役所と連携し、地域における様々な青少年の健全育成や自立支援活動を支援・推進します。 情報提供、相談・調整・コーディネート、地域連携事業実施 他
青少年の自立支援や健全育成に関わる人材の育成 (BCD- -1)	大人も子どもも共に育つ地域づくりの推進を図るため、子どもの成長に関心を持ち、見守り、積極的に支援できる人材を育成するための講座・研修の企画及び、実践機会を提供します。なお、講座・研修については、関係機関・団体と連携し協会の運営する青少年施設を中心に実施します。 また、青少年育成関係の研修会に講師を派遣します。 地域で青少年を支援する人材の育成事業、講師派遣 他
自然環境や地域資源を活用した青少年育成プログラムの開発・展開 (BCD- -1)	青少年が自立心や社会性を身につけるために有効な、集団での体験機会を提供するために、市内外の自然環境や地域資源を活用した体験活動プログラムを開発し、関係機関・団体及び、協会が運営する青少年施設等で展開します。 自然体験プログラム、地域活動を活用した市民活動体験プログラム等の開発 他
科学体験・社会体験・就業体験等の体験機会の提供 (BCD- -1)	青少年が自主的に活動し、科学体験、社会体験等の様々な体験を通して成長して行けるよう、体験活動の相談・コーディネート、体験活動事業を実施します。 青少年体験活動推進コーナ 他
学校と連携した科学教育の推進 (BCD- -1)	横浜サイエンスフロンティア高校をはじめとする教育機関・企業と連携事業を実施し、青少年に対する科学教育の推進を図ります。 横浜サイエンスフロンティア高校との連携事業 他

事業の柱	説明
指定管理施設連携事業 (E- , )	施設連携による相乗効果が得やすい事業を協会本部が統括して企画し、施設連携により実施することで、青少年育成に関して最大限の成果を得られるよう取り組みます。併せて、次期指定管理者獲得に向けた各施設の実績づくりのため、施設事業面での評価・検証の充実を図ります。  居場所づくり支援、青年ボランティア育成、科学普及のためのアウトリーチ 他
ボランティア育成基金の充実 (G- -1)	基金募集事業を実施し、青少年育成に取り組む原資としてのボランティア育成基金の拡充を図ります。また、基金募集事業の企画・運営、基金の活用等について基金委員会で協議します。  基金募集事業、基金委員会 他
自主財源の確保 (G- -2)	企業のCSR活動と青少年育成活動・ボランティア活動等のコーディネートを通じた企業協賛の獲得を図るとともに、地域へのアウトリーチ(営業活動)で把握したニーズに対する事業企画を提案し、地域と協働で青少年育成事業を展開します。

企画営業課の基本方針				
協約の数値目標	青少年の自立支援事業の実施	3 事業	ホームページのアクセス数	120 指数
協約目標への取り組み	青少年の健全育成と自立支援事業を一体的に捉え、青少年が直接体験することで自立心や社会性を身につけていける事業を施設連携により実施します。			
P D C A サイクルの充実	協会全体の青少年育成に関する公益的使命を果たしていくため、内部・外部評価を行い、その結果を反映、改善する機能を更に強化します。			
コスト削減	事業の費用対効果を分析し、効果的な事業執行に努めます。			

【平成21年度事業計画書】 施設管理部 育成センター

施設の運営（運営方針）			
<p><b>重点目標</b></p> <p>育成センターは青少年指導者・育成者の活動拠点として、青少年育成活動の支援、研修・講座を実施し、青少年育成活動を推進するとともに、青少年育成に取り組む人材を養成します。</p>			
事業の基本方針			
<p><b>事業全般の方針</b></p> <p>多様化する青少年の課題に対応するため、青少年指導者・育成者を主な対象に、講座・研修、相談、情報提供を行うとともに、青少年育成活動を支援します。</p> <p><b>施設の特徴を活かした取り組み</b></p> <p>青少年4施設の中核として、施設連携事業、青少年指導者・育成者との協働事業、施設および関係機関・団体、放課後キッズクラブ等との連携事業を推進します。</p> <p><b>重点的な取り組み</b></p> <p>地域で青少年活動を推進する人材を養成します。</p>			
事業の数値目標			
講座・研修参加者満足度	80%以上	協働事業の割合	80%以上
各事業の方向性			
事業の柱	説明		
青少年指導者・育成者の養成や活動支援 (E- -1)	<p>青少年育成活動に必要な知識やスキルを習得するための講座・研修会、及び、団体活動の基礎を学ぶ講座・研修会、学校・PTA活動の推進等を行います。</p> <p>団体活動のための基礎講座、青少年育成者養成講座 他</p>		
青少年育成団体への支援事業 (E- -1)	<p>青少年育成活動の充実を図るため、団体が活動していくために必要な事務局機能を支援するとともに、活動に必要な物品や会議室等の貸し出しを行います。</p> <p>また、青少年育成団体がお互いの知識や技能等を共有し活動の充実や拡充が図れるよう、団体相互のネットワークを築くことを目的とした交流事業を実施します。</p> <p>活動支援室（印刷・作業スペース）、活動情報交流事業 他</p>		
青少年育成やボランティア・市民活動の相談、情報提供 (E- -1)	<p>青少年育成活動に関する情報を提供するために、協会本部や青少年4施設と連携して情報の収集を行い、青少年育成活動の相談などに対応していきます。</p> <p>また、ボランティア活動の基礎的な知識やスキルを身につけるための講座・研修会を実施し、青少年活動を支えるボランティアの育成にも取り組みます。</p> <p>ボランティア情報スポットの運営 他</p>		
その他青少年育成事業の実施 (E- -1)	<p>青少年の自立支援や思春期問題をはじめとする多様な課題へ対応するため、NPOや専門機関・団体と協働して講座・研修会を実施します。</p> <p>また、関係機関・団体等のニーズに応じた連携事業を実施します。</p> <p>青少年の課題解決に向けた事業 他</p>		

**施設管理 基本方針**

協約の数値目標	施設稼働率	52.8%	施設利用件数	3,555件
協約目標への取組み	単に数値目標達成に取り組むのではなく、青少年指導者・育成者への優先的な貸し出しにより、青少年指導者・育成者の活動を支援します。また、利用者の様々なニーズに応え付帯設備などの充実を図ります。			
指定管理関係	引き続き利用者から、アンケートおよびヒアリングの機会を設け、事業や施設運営の改善に反映させます。			
コスト削減	効率的な運営をめざすとともに、修繕については優先順位を定め、的確に改善します。			



【平成21年度事業計画書】 施設管理部 交流センター

施設の運営（運営方針）

重点目標

交流センターは、青少年の活動や交流を支援し、自立支援や育成を図る拠点として、青少年が、学校や家庭では体験できない自主的・主体的な活動や人間関係を通して成長し、社会に一步を踏み出していけるよう支援を行います。また、青少年の居場所推進拠点として、市内に青少年の居場所機能を持つ場所や活動が広がっていくよう、居場所づくりのノウハウを提供します。

事業の基本方針

事業全般の方針

青少年の居場所として、ふらっと立ち寄ることができる場であることを大切にします。また、青少年の自主的な活動を推進するために、青少年が参画できる体制作りを進めるとともに、地域の大人に青少年の居場所の必要性を理解してもらうために地域との連携を図ります。

施設の特徴を活かした取り組み

大人も子どもも利用する施設である点を活かし、青少年が様々な年齢層や価値観に触れながら成長し、さらに地域社会と繋がることで地域と共に育つ環境づくりに取り組みます。

重点的な取り組み

横浜市の施策と連携した青少年の地域活動拠点の推進、ならびに地域の居場所づくり支援。

事業の数値目標

地域への居場所づくり支援 30件	青少年による提案の事業化 80%	
------------------	------------------	--

各事業の方向性

事業の柱	説明
活動、交流の支援 (相談、助言、情報提供) (E- -2)	青少年に様々な体験活動機会を提供するために、相談・情報提供を行います。 青少年が交流センターに関わることで、自分がやりたいことを発見したり、やりたいことが形になったり、新しい仲間と出会えたり、将来について考えることができるように支援します。 交流センターホームページ、相談、情報提供の充実 他
居場所事業 (運営、居場所づくりの支援) (E- -2)	居場所の運営及び居場所づくり支援を実施します。 青少年が交流センターに来ることで、ほっとできる、安心できる、学校でも家庭でもない第3の場所としての環境づくりを行います。 青少年が主体的に関わる居場所づくりに取り組み、ノウハウを地域に提供します。 そのために、青少年を受け止め関わっていく“ロビーワーク”を更に充実します。 また、青少年の地域の活動拠点等の居場所づくりに関わる大人が、子どもと関わる機会を持つための、実習機会を提供します。 居場所づくり支援、交流と自立の支援、自主企画等の充実、地域との交流 他
青年リーダーの養成 (E- -2)	青少年が、子どもたちに関わるボランティア活動を体験し、その後もリーダーとして継続的に活動を続けられるように、青年リーダー養成事業を実施します。 学校や年齢が異なる子どもたちや、大人と関わることで、青少年が社会性を身につけられるように支援します。 青少年委員会、青年ボランティア活動 他
その他青少年育成事業の実施 (E- -2)	青少年の自主的な活動が継続的に行われるような支援をロビーワークを通じて行います。 青少年の自主的な活動を支援する講座・研修会 他

**施設管理 基本方針**

協約の数値目標	施設利用人数	青少年 76,000 人 (全体 147,000 人)
協約目標への取組み	単に数値目標の達成ではなく、交流センターの取組みをより広げるために、事業を通じた地域との繋がりによる利用促進に取り組めます。	
指定管理関係	老朽化した施設を、安全・快適に使用するために横浜市と共に施設改善に努めます。	
コスト削減	空調運転の節減、照明器具の工夫、各種電源の適切な ON / OFF を励行します。また、事業 PR 等は協会他施設と連携し効率的な PR に務めます。	
特記事項	G 3 0 等、環境に配慮した取組みを、利用者に理解と協力を求め、共に取り組めます。	



【平成21年度事業計画書】 施設管理部 研修センター

施設の運営（運営方針）			
<p><b>重点目標</b></p> <p>研修センターは、青少年が社会性を身につけるために、より効果的な“共同生活（宿泊）”ができる体験活動の拠点として、青少年に様々な体験活動・集団活動の場を提供します。また、青少年の体験活動を充実させるために、青少年指導者・育成者の主体的な研修活動を支援します。</p>			
事業の基本方針			
<p><b>事業全般の方針</b></p> <p>利用団体の活動支援のための体験活動プログラムの開発・提供を基本に事業を実施します。これらのプログラムは、青少年指導者・育成者の研修や課題を抱える青少年の自立支援に向けた事業にも活用します。</p> <p><b>施設の特徴を活かした取り組み</b></p> <p>青少年や青少年指導者・育成者の宿泊研修プログラムを支援するとともに、研修センター周辺の環境を活かしたプログラムを開発し、青少年が学校や家庭では体験できない多様な魅力ある活動を提供します。また、青年ボランティアが利用団体の活動を補助することで、利用者と青年ボランティアが共に育つ場づくりにも取り組みます。</p> <p><b>重点的な取り組み</b></p> <p>「自ら直接体験する機会」として、研修センター周辺の自然環境を活かしたプログラムの開発を行い、研修センター利用者に多彩で魅力あるプログラムを提供します。</p>			
事業の数値目標			
利用者満足度	90%	協働事業の割合	80%
各事業の方向性			
事業の柱	説明		
体験活動・集団活動のための研修・宿泊施設の提供 (E- -3)	単に研修室・宿泊室を貸出すのではなく、体験活動・集団活動が効果的かつ安全に実施できるよう、生活プログラム・体験プログラムの相談および、同じ日に利用する団体相互の理解を図るための打ち合わせを実施します。 また、放課後児童育成推進団体の宿泊体験事業を推進します。 プログラム相談、アフタースクールキャンプ 他		
青少年指導者・育成者の支援 (E- -3)	青少年指導者・育成者が、より効果的な体験活動プログラムを企画運営できるよう、相談・情報提供、研修を行います。 スキルアップ講習会 他		
体験活動プログラムの開発・提供 (E- -3)	利用団体への活動支援の一環として、学校や家庭では体験できない、野島周辺の自然環境を活かした体験活動プログラム等を開発・提供します。 海辺の自然観察プログラム 他		
その他青少年育成事業の実施 (E- -3)	研修センターが蓄積した体験活動のノウハウを活かし、若者の自立支援事業を専門機関・団体と協働で実施する他、青少年が参加しやすい自然体験事業や地域連携事業を実施します。 また、青年ボランティアが利用団体の活動を補助することで、利用者と青年ボランティアが共に育つ場づくりに取り組みます。 若者の自立支援事業、地域連携事業、青年ボランティア活動 他		

施設管理 基本方針				
協約の数値目標	施設稼働率	74%	利用件数	550件
協約目標への取組み	<p>小学校体験学習をはじめ、青少年指導者・育成者、子育てサークル等の利用促進を図ります。また利用団体が、効果的に活動できるようプログラム相談等を行います。</p>			
指定管理関係	<p>施設を安全に、安心して楽しく利用していただくために、利用者の視点に立ち、施設管理、危機管理などあらゆる面からサービスを検討し、その向上に努めます。</p>			
コスト削減	<p>空調運転の節減、照明器具の工夫、各種電源の適切なON/OFFを励行します。また、設備機器の長寿命化のために機械に負担をかけないように、運転を工夫します。</p>			
修繕関係	<p>建物・設備の保守関連の計画的な管理を行います。 突発的な故障による利用者への影響を最小にするために、日頃の点検を入念に行い、異常を発見した時は、迅速に対応します。</p>			
特記事項	<p>研修センターでの宿泊生活体験を通して節電節水等、環境に優しい生活を行い、環境に配慮した取り組みを理解してもらうことで、利用者の日常生活における環境への意識向上に繋がります。</p>			

**施設の運営（運営方針）**

**重点目標**

横浜こども科学館は、創造性豊かな青少年育成のための科学体験活動の推進拠点として、頭ではなく、体験を通して感じる科学を大切に、単に展示物を見学するだけでなく、直接触れ、不思議な体験ができる様々な実験・工作教室やイベントなどの科学体験プログラムを実施します。

また、学校との連携による科学教育の推進、地域や団体・企業との協働による科学教室等を実施し、青少年への科学知識の普及啓発を図ります。

**事業の基本方針**

**事業全般の方針**

青少年への科学知識の啓発とともに、科学とどのような形で出会い、体験するかによって、青少年の育成につながるのかを常に考え事業を実施します。また、協会本部や青少年 4 施設が連携することにより、青少年の育成を効果的に推進します。

**施設の特徴を活かした取り組み**

直接触れることができる展示や科学体験イベント、利用対象に合わせたプラネタリウム投影を通して青少年の関心や探求意欲を引き出し、新たな課題に挑戦していける創造性を育む場を提供します。

**重点的な取り組み**

地域や団体、企業との協働による科学教室等の開催や学校との連携による科学教育の推進に取り組みます。また、閉館時間後のプラネタリウムや天体望遠鏡を活用した特別企画事業や放課後児童育成 3 事業と連携した事業を実施します。

**事業の数値目標**

参加者満足度 85%

**各事業の方向性**

事業の柱	説明
科学原理を応用した展示物や遊具などを配置した常設展示の運営 (E- -4)	「宇宙」をテーマとした科学の不思議さ面白さを体験できるよう、常設展示やサイエンスショー、ミニ実験を運営するとともに、興味関心のあるテーマについてさらに深められるよう、図書やビデオソフトなどの資料を提供しながら、青少年の科学体験を支援します。  展示室の管理運営（サイエンスショー等）、図書室・ビデオライブラリー 他
青少年が科学の不思議さや面白さなどに接することのできるような企画展の実施 (E- -4)	多くの青少年にさまざまな科学テーマに触れる機会を提供するため、常設展示では扱っていないテーマを取り上げた企画展を実施します。  魔法のつみ木カブラ、昆虫ワールド 他
利用対象に合わせたプラネタリウムの番組制作と投影 (E- -4)	一般番組、幼児向け番組、学習番組の投影とともに夜間投影や星空コンサート等の特別企画投影、開港 150 周年記念番組を上映することで、「宇宙」に対する青少年の関心、探求意欲を引き出し、新たな課題に挑戦できる創造性を育みます。 一般番組投影、幼児向け番組投影、学習番組投影、150 周年記念番組投影、夜間投影、放課後児童特別投影、星空コンサート 他

事業の柱	説 明		
科学に関する体験講座や教室などの開催 (E- -4)	<p>教室やワークショップ、講演会など多彩なプログラムを通じて青少年が科学に触れる機会を提供することで、青少年の自発性や創造性などを育みます。</p> <p>今年度は、ボランティアや企業、NPOなどと協働して事業を効果的に進めていくとともに、中学、高校、大学等の学校教育と連携し、科学体験の推進を図ります。</p> <p>体験スタジオ、天文教室、外部連携事業 他</p>		
その他、科学体験、社会体験など (E- -4)	<p>青少年が身近に科学に触れる環境を作るため、天文ボランティア、事業ボランティア等の養成、地域で活躍する科学体験インストラクターの養成、博物館学芸員の実習受入など、青少年が科学に興味関心を持ち、自発性や創造性などを育てていく人材を育成していきます。また、科学館事業のPRや科学情報の提供も図っていきます。</p> <p>事業ボランティア等の育成、科学体験インストラクターの養成 博物館学芸員の实習受入、ホームページの運営 他</p>		
<b>施設管理 基本方針</b>			
協約の数値目標	利用団体数	1,040以上	
協約目標への取組み	<p>入館団体数 1,040 団体以上を確保するため、学校、幼稚園及び放課後児童育成推進団体等への広報を積極的に行うと共に、利用し易いプログラムを提供します。</p>		
指定管理関係	<p>常設展示物を常に良好な状態に維持し改良すると共に、プラネタリウム機器の安定稼働に努めます。また、老朽化している施設・設備の保守整備や施設改善を横浜市と共に、安全快適な施設運営に努めます。</p>		
コスト削減	<p>今年度に引き続き、きめ細かな空調温度や運転時間の設定、入館者数に合わせたエレベーター運行等による省エネを行ない、経費を削減します。また、効率的な施設運営を行ない経費の削減を図ります。</p>		
特記事項	<p>常設展示の補修改良を計画的に行ない、展示室の安定稼働に努めます。</p>		

【平成21年度事業計画書】 放課後児童育成推進部 運営課

運営課の運営（運営方針）

重点目標

横浜市と連携を図りながら、「子どもたちの放課後懇話会」の提言を踏まえ、小学校施設を活用し、すべての子どもたちを視野に入れ、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを推進します。

事業の基本方針

事業全般の方針

昨年度に引き続き、合計20か所の放課後キッズクラブを運営するにあたり、運営法人として全市的な視野に立って質・量ともに横浜市における放課後児童育成施策の推進を行います。

なお、平成21年度に設置される新設の放課後キッズクラブの運営にも積極的にに関わり、運営箇所数を増やしていきます。

施設の特徴を活かした取り組み

協会が運営する全20キッズとも利用者が年々増加しているため、日々の活動スペースの許容人数の限界に近づいてきています。それに対応するために、外出プログラムや対象者（学年別等）限定プログラムの実施などの工夫をすることにより、限られたスペースの中で安全に効率よく運営していきます。

重点的な取り組み

今年度は、平成17年度開設校の7校が、運営法人の見直しのための再公募が行なわれます。このために、昨年同様に対象校に対しての自己評価および利用者アンケートを実施し、その結果を分析・評価し、法人選定プレゼンテーションにて実績をアピールします。

各事業の方向性

事業の柱	説明
地域連携 (A- -1)	協会が運営する全20キッズにおいて、学校・地域や利用者からの声を参考にするとともに、良き理解者を増やすことで、よりよいキッズ運営に活かします。 評議会の開催、保護者会の開催 他
情報共有 (A- -1)	協会が運営する全20キッズの主任および指導員を対象に常に情報を共有できるよう、定期的に会議を開催し、お互いの情報を交換しあい、キッズ運営を図ります。 主任会議、指導員会議、合同会議 他
事務の効率化 (A- -1)	協会が運営する全20キッズにおいて、運営に関わる経理関係業務の効率化を図り、子どもたちに接する時間を増やす工夫をします。 レジスターの導入 他
ネットワーク作り (A- -1)	内部および外部の2つのネットワーク作りに取り組み、協同事業等を実施します。 ドッジボール大会、地域施設等の活用推進 他
ボランティア活用 (A- -1)	協会運営施設等と連携し、ボランティア活動希望者の受入を積極的に実施します。また、市内の大学等にも積極的に呼びかけます。 ボランティア受入事業

事業を実施する上での基本方針			
協約の数値目標	利用（登録）率	58%	
協約目標への取り組み	<p>利用（登録）率58%を目標値として挙げています。現状では各キッズとも日々の利用児童数が増加し、活動スペースの許容人数の限界に近づいています。</p> <p>このことに伴い、新規に登録する児童数に伸び悩みが生じています。</p> <p>また、利用頻度の高い低学年においては各キッズとも90%を越える登録率のため、この学年層での登録率増加はほとんど望めません。</p> <p>したがって、高学年層をターゲットに登録をすすめる仕組みを新たに考える必要が生じています。</p> <p>利用率 = 当該キッズへの登録児童数 ÷ 当該校の在籍児童数</p>		
協会他施設との関係	<p>協会他施設と協働し、ボランティア活動希望者を積極的に受け入れるとともに、施設スタッフが市内の各キッズでの出前講座等を実施することにより、各施設で培った青少年育成の様々なノウハウを普及する場として活用しています。</p>		
コスト削減	<p>例年同様、消耗品等の購入を極力削減し、廃棄物または廃品（紙パック等）の再利用での工作プログラムを導入したり、材料費がかかるプログラムに対してはできるだけ受益者負担で実施したりしています。</p>		
特記事項	<p>各キッズともに個別に支援を必要とする児童の数が増加し、その障害の程度によりスタッフがマンツーマンで対応せざるを得ない状況が非常に高くなっています。</p> <p>なお、これらの児童への対応として、学校と連携しながら、放課後キッズクラブのスタッフが昼間の授業中に補助ボランティアとして活躍している学校も少なくありません。</p> <p>また、学校の耐震工事等の関係により、キッズ全般の活動場所を一定期間変更するケースや、学校児童数の急激な増加により教室が不足し、一定時間帯（午前中）は学校がキッズのスペースを利用するケースも増えてきています。</p>		



【平成21年度事業計画書】 放課後児童育成推進部 研修課

研修課の運営（運営方針）

重点目標

横浜市の放課後児童育成施策と連携を図りながら、横浜市からの委託を受けて「放課後児童育成3事業」の研修および事業等を実施します。

事業の基本方針

事業全般の方針

昨年度に引き続き、放課後児童クラブ（学童保育）・はまっ子ふれあいスクール・放課後キッズクラブに従事する各スタッフに対する研修等を企画・運営・実施します。

事業の特徴を活かした取り組み

- 放課後児童育成に携わる3事業全てのスタッフを対象とした研修
- 放課後児童クラブ（学童保育）のスタッフを対象とした研修
- 放課後キッズクラブのスタッフを対象とした研修（新設および既存キッズの新採用スタッフ）
- 放課後キッズクラブ(64校)運営に係る情報交換や情報提供のための指導員連絡会の開催

重点的な取り組み

昨年度に引き続き、現場のニーズに合わせた「障害児対応」に関する研修を強化し、多くのスタッフが受講できるよう、開催時期や回数・募集人数等について工夫します。

各事業の方向性

事業の柱	
スタッフの 人材育成 (A- -1)	子どもと関わる人材を育成し放課後児童育成に携わる3事業の推進を図るため、スタッフの段階に応じた対象者別研修、及び協会が運営するキッズクラブ全スタッフ対象の研修会を実施します。 障害児対応・安全管理・人権等の基礎研修、新設キッズ研修 協会独自研修 他
放課後キッズクラブ 事業の広報 (A- -1)	放課後キッズクラブのパンフレット作成・配布等により、広く市民にPRします。 パンフレット作成
放課後キッズクラブ の運営支援 (A- -2)	放課後キッズクラブ運営に関するマニュアルを作成し、キッズクラブ運営に活用します。 運営マニュアル、安全管理・事故対応マニュアルの作成、運営主体の支援・調整
放課後キッズク ラブスタッフの ネットワーク支援 (A- -3)	放課後キッズクラブ(64校)運営に係る情報交換や市からの情報提供のための会議を開催します。 指導員連絡会の開催

事業実施する上での基本方針

協会他施設との 関係	施設スタッフを研修講師として登用し、各施設で培った青少年育成の様々なノウハウを普及する場として活用していきます。
コスト削減	例年同様、消耗品等の購入を極力削減し、講師謝金に関しても横浜市行政の専門職員等の登用などでコスト削減に努力します。
特記事項	各研修の効果を高めるために、横浜市と協議しながら、参加条件や研修実施形態など、在り方について協議・検討します。また、新規開設の放課後キッズクラブのスタッフ研修は必修と位置づけられたため、全ての研修に必ず参加するよう促します。なお、放課後キッズクラブのスタッフ研修の項目を見直し、現場で必要なノウハウを積極的に盛り込むよう横浜市と検討を重ねます。



平成21年度 総務企画部 事業計画一覧表

総務課

事業の柱	事業名	内容	実施時期(回数)	備考
会員関連事業 (G- -1)	協会だより	当協会の動きや会員が参加可能な事業等をお知らせし、協会事業への参加および当協会への理解を深めます。	年6回	
	会員交流会	当協会への理解と会員相互の交流を図るため交流会を実施します。	年1回	
職員研修 (G- -2)	協会スタッフ研修	協会スタッフの資質向上や業務水準の向上を図るため、人権研修や個人情報保護研修を実施します。	年8回以上	
	職員研究交流集会	職員全体が一同に集まり、相互の事業の成果や課題を発表・検討する研究交流集会を実施します。	年1回	

企画営業課

事業の柱	事業名	内容	実施時期(回数)	備考
地域における 青少年活動の 推進 (BCD- -1)	青少年育成パンフレットの作成・活用	協会の資源を地域活動に活用してもらうことを目指して、協会の役割や取り組みを集約したパンフレットを作成し、行政、学校、PTA、子ども会等関係団体、企業等に青少年育成のプロモーションを展開します。	通年	
	青少年育成情報紙の発行	青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を通じて、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に、青少年育成活動の情報を発信します。地域における青少年育成活動の活性化を促進するよう内容の充実を図ります。	年4回	
	協会広報紙の発行	協会主催・共催事業、協会の運営施設での事業等を広く周知することで事業参加者の増加を図るとともに、協会自体やその取り組みについて広く市民に周知します。	年6回	
	協会ホームページの充実	インターネット媒体を通して、協会の概要、青少年4施設の紹介、事業および講座等の案内、ボランティア活動、最新の宇宙・天文情報等の情報を提供することにより、青少年育成活動、ボランティア活動希望者の支援、科学知識の普及および当協会のPRを行うとともに、協会運営の透明性や公開度を高めていきます。	通年	
	調整・相談・コーディネート	地域の青少年育成事業や居場所づくり事業等に地域の市民活動やNPOの活動をコーディネートするとともに、区役所や自治会等との調整を図ります。	通年	
	地域連携事業	地域や市民活動団体、ボランティアとの連携を図りながら、地域で青少年を育む連携事業を実施します。また、ノウハウを持ったスタッフが地域に出向き、地域における青少年活動を支援します。 十日市場中学校地域連携事業、洋光台サイエンスクラブ 他	通年	
青少年の自立 支援や健全育 成にかかわる 人材の育成 (BCD- -1)	地域で青少年を支援する人材の育成事業	子どもの成長に関心を持ち、見守り、積極的に支援できる人材を育成するための講座・研修の企画及び、実践機会を提供します。	通年	新規
	子どもの遊びサポート事業	プレイパークをはじめとする集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育ていく活動に関わるボランティアを育成します。	年3回	
	講師派遣	行政や地域団体等が開催する青少年育成関係の研修会に、協会職員をはじめとする講師を派遣します。	通年	

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
自然環境や地域資源を活用した青少年育成プログラムの開発・展開 (BCD- -1)	自然体験プログラムの開発・展開	道志村や野島海岸など市内外の自然環境資源を活かした青少年の健全育成プログラム(自然塾やサイエンスキャンプ等)の開発、展開に取り組みます。	通年	新規
	野島クリスマスキャンプ	横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒を対象に体験活動の場を提供するとともに、青年ボランティアに児童・生徒への理解を深めてもらうことを目的に、団体(実行委員会)と協働で実施します。	年1回	
科学体験・社会体験・就業体験等の体験機会の提供 (BCD- -1)	青少年体験活動推進コーナー	青少年が主体的に活動し様々な体験を通じて成長していくよう、個々の興味に応じた体験活動に青少年をコーディネートするとともに、体験事業を実施します。 また、青少年の多様なニーズに応えるため、大学や企業、地域等の取り組みを調査し幅広い体験活動情報を収集します。 相談・コーディネート、水源林ボランティア事業 他	通年 宿泊体験 年1回	
	ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル	高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進します。運営支援団体の一員として実施します。	スタッフ活動 通年 決戦大会 年1回	
	F U N E プロジェクト	横浜開港 150 周年協会と協働して「F U N E (船)」制作ならびに、帆船日本丸を活用した海洋体験事業を実施します。	年1回	
学校と連携した科学教育の推進 (BCD- -1)	横浜サイエンスフロンティア高校との連携事業	横浜サイエンスフロンティア高校をはじめとする教育機関や企業と連携事業を実施し、青少年に対する科学教育の推進を図ります。	通年	新規
指定管理施設連携事業 (E- , )	ハートフルスペース連携事業	横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」(不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生活指導)の活動の場として、交流センターを提供します。また、宿泊体験事業を研修センターにおいて実施します。	通年 宿泊体験 年1回	
	青少年の自立支援に関する事業	青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を、若者自立支援の専門機関・団体および、青少年4施設と連携し実施します。	年2回	
	居場所づくり支援	交流センターで蓄積したノウハウを活用し、生麦プロジェクトをはじめとする青少年の地域活動拠点を支援します。	通年	
	青少年ボランティアの育成	青少年4施設およびキッズクラブと連携して、ボランティアを育成します。	通年	
	科学普及のためのアウトリーチ	NPO等と協働で青少年向けの科学普及事業を実施します。また、科学館天文ボランティアが青少年4施設や地域、学校で天文教室等を実施します。	通年	
ボランティア育成基金募集事業 (G- -1)	基金委員会	基金募集事業の企画・運営、基金の活用等について協議します。	通年	
	基金募集事業	爆笑!濱っ子寄席、デジカメ講座、基金箱の設置か所(市内約60か所)の拡大等、基金募集事業を実施します。	年1回	
自主財源の確保 (G- -2)	企業協賛の獲得	企業のCSR活動と青少年育成活動・ボランティア活動等のコーディネートを通じた企業協賛の獲得を図るとともに、地域へのアウトリーチ(営業活動)で把握したニーズに対する事業企画を提案し、地域と協働で青少年育成事業を展開します。	通年	

平成21年度 横浜市青少年育成センター 事業計画一覧表

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
青少年指導者・育成者の養成や活動支援 (E- -1)	団体活動のための基礎講座	青少年育成活動に必要な知識やスキルを習得するための講座・研修会を実施します。また、団体活動の基礎を学ぶ講座・研修会等も実施します。 救急法講習会、カウンセリング講座、スキルアップ研修	年9回	
	青少年育成者養成講座	地域の大人たちが子どもの成長に関心を持ち、見守り、積極的に支援できるように、青少年の健全育成や自立支援に関わる人材を関係機関・団体と連携して育成します。 インターネットによる有害情報対策講座 他	年3回	
	学校・PTA向け講座	保護者への理解を深め、学校・PTAの活動を推進するための講座等を実施します。 新聞づくり講習会、新聞作品コンクール	年9回	
青少年育成団体への支援事業 (E- -1)	活動支援及び活動物品貸出	青少年育成団体の事務所機能の支援として、印刷機やコピー機、作業スペースの貸し出し及び、青少年活動を支援するための物品を貸し出します。 印刷機・コピー機の貸出、着ぐるみの貸出 他	通年	
	会議室・スタジオ等の貸出	青少年指導者・育成者の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を、できる限り制限を設けず貸し出します。	通年	
	活動情報交流事業	青少年指導者・育成者、NPO等が相互に交流し、お互いのノウハウや資源を共有し有効活用できるようなネットワークを構築するために交流事業を開催します。 利用者交流会	年1回	
青少年育成やボランティア・市民活動の相談、情報提供 (E- -1)	ボランティア情報スポットの運営	青少年育成活動に関する情報を提供するために、情報の収集を行い青少年育成活動の相談などに対応していきます。また、協会本部や青少年4施設での活動プログラム・活動事例の収集・提供を行い、指導者・育成者が気軽に閲覧できる環境を整えます。 ボランティア相談、ホームページによる情報提供 他	通年	
	ボランティア入門講座	青少年に関わるボランティア活動を始めたい人を対象に、ボランティア活動の基礎的知識やスキルを身につける講座・研修会を実施します。 「応急手当」実習、こどものいじめ予防 他	年4回	
その他青少年育成事業の実施 (E- -1)	青少年の課題解決に向けた事業	青少年の自立支援や思春期問題をはじめとする多様な課題へ対応するため、NPOや専門機関・団体と協働して講座・研修会を実施する他、地域や関係機関・団体等のニーズに応じた連携事業を実施します。 発達障害支援者支援セミナー、教育相談講習会 他	年5回	

平成21年度 横浜市青少年交流センター 事業計画一覧表

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
活動、交流の支援 (相談、助言、情報提供) (E- -2)	相談・情報提供	青少年に、様々な体験活動の情報を提供します。また、他機関からの相談に応じて、交流センターに来る青少年対象事業を協働で実施します。 ホームページの充実、相談業務、情報提供 他	通年	青少年体験活動推進コーナーと連携
居場所事業 (運営、居場所づくりの支援) (E- -2)	居場所づくり支援	青少年の地域活動拠点の推進ならびに地域の居場所づくりの支援を行います。 居場所づくりの実習機会の提供、情報交換会 他	通年	
	交流スペース等の自由利用スペースでの交流と自立の支援事業	青少年にロビーワークを通じた日常的な交流、相談、支援を行うとともに、青少年のニーズに応じた自立支援事業を実施します。 ロビーワーク、ふらっとカフェ(進路相談等) 他	通年	
	利用者同士の交流事業や成果発表会	交流センターを利用している青少年や一般(大人)による成果発表、交流の機会をつくります。 青少年ライブ、利用者発表会(@楽祭) 他	通年	
	青少年と地域の交流事業	地域との連携による青少年事業を実施します。 キッズクラブとの連携事業、こどもの日祭 他	通年	
	会議室・スタジオ等の貸出	会議室、スタジオ、印刷機、コピー機等、活動に関わる施設・物品を貸し出します。	通年	
青年リーダーの養成 (E- -2)	青少年委員会	青少年が自ら青少年の居場所づくりに参画できるよう、委員会を設置し、交流センターの運営に関わるとともに青少年向けのイベントを実施します。 青少年委員会定例会議、お菓子作り教室 他	通年	
	青年ボランティア活動	日常的に子どもと関わるボランティア活動の場を提供するとともに、青少年向けイベントを企画・実施します。 青年ボランティアによるイベントの開催 他	通年	
	季節ボランティア活動	長期休みに、高校生・大学生を中心としたボランティア体験の場を提供します。 夏期青年ボランティア活動(施設ボラ体験) 他	年3回 (夏、冬、春)	
その他青少年育成事業 (E- -2)	青少年の自主的な活動を支援する講座・研修会	青少年の自主的な活動が継続的に行われるよう、ロビーワークを通じてニーズを把握し、青少年とともに事業を企画・実施します。 親子参加の講座、スポーツ講座、音楽講座 他	通年	

平成21年度 横浜市野島青少年研修センター 事業計画一覧表

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
体験活動・集団活動のための研修・宿泊施設の提供 (E- -3)	プログラム相談	利用者がより充実した研修が行えるように、これまで蓄積したノウハウを活かし、利用者の相談に対応します。 利用事前打ち合わせ、代表者会議 他	通年	
	備品貸出	利用者の活動がより充実するよう、厨房用具の整備、備品の貸し出しを行います。 厨房用具整備、キャンドルファイア用具 他	通年	
	アフタースクールキャンプ	放課後児童育成推進団体に対して、宿泊体験のための場の提供やプログラム提供を行います。 キッズクラブ合同宿泊キャンプ 他	通年	
青少年指導者・育成者研修の支援 (E- -3)	スキルアップ講習会	青少年指導者・育成者が、より効果的なプログラムを実践できるよう、研修センター周辺の環境を活用した活動のための講習会を実施します。 野外レク研修 他	年3回	
	施設利用者研修会	研修センターをより有効的に活用してもらい、幅広い活動が実施できるよう、利用者対象の研修会を実施します。 厨房を活用した食育講座、施設利用研修会 他	通年	
体験活動プログラムの開発提供 (E- -3)	野島ワークショップ	利用団体に、研修センター周辺の自然を活かした体験や日頃体験できない活動プログラムを提供します。 野島カー、自然物クラフト 他	通年	
	プログラム研究開発	研修センター周辺の自然環境を活かした体験活動や施設の特徴を活かしたプログラムを開発・提供します。 海浜の自然観察、カヌー体験 他	通年	
その他の青少年育成事業の実施 (E- -3)	オールクリーン野島ビーチ	親子で気軽に参加できる環境学習とボランティア体験として、野島の海浜清掃、海の生き物観察を行います。 海浜清掃ボランティア、生き物観察会	年4回	
	金沢水の日	研修センターをメイン会場として、区内の市民団体が、青少年、地域交流、環境等をテーマに事業を実施します。	年1回	
	パードウォッチング in 野島	「野島の観察」を通して、自然環境保護への興味・関心を深めます。	年1回	
	野島ふれあいランド	研修センター周辺地域の住民を対象に、遊びを中心に世代を超えた気軽な交流を行います。 クラフト、もちつき、伝承あそび 他	月1回	
	ボランティアスタッフの育成	青年が利用団体の活動を補助することで、青少年育成・ボランティア活動について学び、活動を実践するボランティアの育成を行います。 ボランティア研修、施設ボランティア実習 他	通年	
	自立支援事業	若者自立支援の専門機関・団体と協働で宿泊体験プログラムを実施します。	通年	
	地域団体支援	研修センター周辺で活動する団体への支援として、場の提供、事業実施協力等を行い、地域団体との連携を強化します。	通年	

平成21年度 横浜こども科学館 事業計画一覧表

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
科学原理を応用した展示物や遊具などを配置した常設展示の運営 (E- -4)	展示室の管理運営	「宇宙」をテーマとした科学の不思議さを体験するための常設展示やサイエンスショー、ミニ実験を通じて、青少年の科学への興味関心を高めます。	通年	
	図書室・ビデオライブラリー	科学の不思議さに触れた青少年が、興味関心のあるテーマについてさらに学習を深められるよう、図書やビデオソフトなどの資料を提供していきます。	通年	
青少年が科学の不思議さや面白さなどに接することのできるような企画展の実施 (E- -4)	企画展	多くの青少年にさまざまな科学テーマに触れる機会を提供するため、常設展では扱っていないテーマを取り上げた企画展を実施していきます。 魔法のつみ木カプラ、昆虫ワールド	年間4事業	
利用対象に合わせたプラネタリウムの番組制作と投影 (E- -4)	宇宙劇場 点検保守・番組投影	一般番組、幼児向け番組、学習番組の投影とともに夜間投影や星空コンサート等の特別企画投影、開港150周年記念番組を上映することで、「宇宙」に対する青少年の関心、探求意欲を引き出し、新たな課題に挑戦できる創造性を育てていきます。 記念番組、特別企画投影、放課後児童特別投影 等	通年	
科学に関した体験講座や教室などの開催 (E- -4)	体験スタジオ	土日祝日、夏休み等、多くの青少年に科学に触れる機会を提供することで、青少年が科学への興味や関心を高めるきっかけを作ります。	通年	
	コンピュータ教室	コンピュータ教室を通じて、青少年が科学に対する興味関心をもてるきっかけを提供します。さらに、コンピュータだけではなく、自律型コンピュータ制御のロボット制作を通じて、中・高校生の参加を促進するとともに、新しい分野に挑戦していきます。	30コース	
	天文教室	天体望遠鏡作りや観望会、夜間特別事業等を実施し、青少年の宇宙や天体に対する興味や関心を深めてもらうことを支援していきます。また、中高校生のボランティアの参加を推進し、青少年に対する科学教育の推進を学校教育と連携しながら図ります。	13回	日食の観望会や講演会を予定
	外部連携事業	NPOや企業等と協働することで、そこが持つノウハウを活かし、青少年に様々な科学体験を提供します。また、協会本部と青少年4施設が一体となり、横浜サイエンスフロンティア高校との協働事業を実施します。	通年	
その他、科学体験、社会体験など (E- -4)	科学館事業に携わる人材育成	青少年が身近に科学に触れる環境を作るため、天文ボランティア、事業ボランティア等の育成、地域で活躍する科学体験インストラクターの養成、博物館学芸員の実習受入など、健全育成に関わる人材を育成します。また、地域の中高校の職業体験事業を受入れます。	通年	
	広報情報提供事業	青少年が気軽に科学情報に触れられるよう、みみよりサイエンスや事業案内の発行、ホームページ等による情報提供を行います。	通年	
来館者の利便を図る売店等の運営 (G- -2)	売店・喫茶室運営事業	来館者の利便及びサービス向上のため、来館記念品や自動販売機による飲料水販売、ファーストフード販売を行います。	通年	

平成21年度 放課後児童育成推進部 事業計画一覧表

運営課

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
地域連携 (A- -1)	評議会の開催	協会が運営する全20キッズにおいて、評議会を開催し、学校・地域等との意見交換を行い連携を図ります。	年2回	上半期 下半期
	保護者会の開催	協会が運営する全20キッズにおいて、保護者会を開催し、保護者への理解と協力を深めます。	年2回 以上	随時
情報共有 (A- -1)	主任指導員会議	協会が運営する全20キッズの主任指導員を対象に毎月1回、精算業務や事務連絡等を行うとともに、各キッズ間での情報交換を行います。	年11回	定例
	指導員会議	協会が運営する全20キッズの指導員を対象に年5回、事務連絡等を行うとともに、各キッズ間での情報交換およびスキルアップ研修を行います。	年5回	随時
	合同会議	協会が運営する全20キッズの主任指導員および指導員を対象に年3回、協会としてのキッズ運営方針等についての説明を含めながら、各キッズ間での情報交換を行います。	年3回	5月 9月 2月
事務の 効率化 (A- -1)	レジスター導入	協会が運営する全20キッズにおいて、今年度からレジスターを導入し、収入に関する領収証発行等の経理関係業務の簡素化を図ります。	通年	
ネットワーク 作り (A- -1)	ドッジボール大会	毎年継続しているキッズ対抗ドッジボール大会(他法人も含む)を各キッズの指導員が中心となって企画・運営・実施することにより、キッズ間のネットワーク作りと個々の指導員のスキルアップに繋がります。	年1回	会場確保状況による
	地域施設等の活用推進	協会関係部署と連携し、プレイパーク等の活用推進事業を企画・実施します。	随時	
ボランティア 活用 (A- -1)	ボランティア受入事業	協会の運営する施設等と連携し、ボランティア活動希望者の受入を積極的に実施します。	随時	夏休みに強化



平成 21 年度 放課後児童育成推進部 事業計画一覧表

研修課

事業の柱	事業名	内 容	実施時期 (回数)	備考
スタッフの 人材育成 (A- -1)	キッズ研修	新規開設放課後キッズクラブの常勤スタッフを対象に、開設前 2 ヶ月間（実習を含む）の研修を実施、補助指導員を対象に 1 日の研修を 2 回実施します。 なお、既存キッズにおける新規採用スタッフに対しても常勤スタッフと一緒に 2 ヶ月間（実習は除く）の研修を実施します。	7～8月 32回  1～2月 29回	
	3 事業共通 研修	主に障害児対応・安全管理・食品衛生・救急法・人権などについての初心者向けの研修を中心に実施します。	6～12月 23回	
	児童クラブ 研修	現場ニーズに基づき、研修内容を調整し実施します。	7～10月 7回	
	協会独自研修	育成協会が運営する 20 キッズの全スタッフを対象に、現場での課題等の解決や必要とされる様々なスキルの向上のため、協会独自に研修を実施します。	4～3月 24回	
放課後キッズ クラブ事業 の広報 (A- -1)	リーフレットの作成	放課後キッズクラブのリーフレット作成・配布等により、広く市民に P R します。	1月	
放課後キッズ クラブの運営 支援 (A- -2)	マニュアル 作成	放課後キッズクラブ運営に関するマニュアルを 2 種（「運営編」と「安全管理と事故への対応編」）作成し、市内各キッズクラブおよび当該校、区役所担当課に配布し、より良い放課後キッズクラブ運営に活用します。	3月	
	運営主体の 支援・調整	各放課後キッズクラブの運営主体に対し、相談や助言、運営ノウハウや各種情報の提供を行います。	通年	
放課後キッズクラブ スタッフの ネットワーク 支援 (A- -3)	指導員連絡 会の開催	放課後キッズクラブ(64校)運営に係る情報交換や市からの情報提供のための会議を開催します。	年 4 回	